

部品 用品 整備

最新動向

テクノレーダー

11

ヘッドライトコーティング

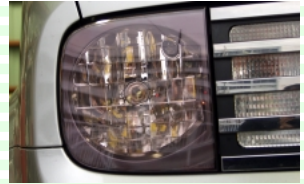
カラフルな『アイシャドウ』で愛車の目もとをさり気なくメイクアップ



施工前



施工後



着色しても光度を損ねたり光色が変わるわけではないので、保安基準への適合について心配は無用だ。

カラーは全7色（ブルー・ゴールド・ピンク・グリーン・ブラウン・バイオレット・ブラック）あり、ボディにマッチさせやすかったり、高効率バルブの照射光にイメージを合わせやすい点が好まれてブルーとグリーンの人気が高いそうだ。サービス料金はヘッドライト2灯で1万2,000円（税別）が相場だ。

『個のニーズ対応』の時代が到来か!?

毎年1月に開催されるチューニング&カスタムカーの祭典「オートサロン」は、今年も若者を中心に数多くの人々が会場を訪れ、とても盛況であった。

オートサロンにはチューニングパーツやカスタムパーツメーカーをはじめ、それを施工するショップなどが数多く出展し、会場を訪ればトレンド情報をすべて入手できるとさえいわれるほど内容・規模ともに充実してきた。

しかしながら、さすがに最近では真新しい商品やサービスにめぐりあう機会が少なくなり、既存のものを熟成させていく考え方が強く感じられた。

そうした中であって、新しく登場する商品やサービスがセールスポイントにしているのは、さらなる「個のニーズ」への対応だ。ここで紹介する「ヘッドライトコーティング」もそのひとつだといえる。

『アイシャドウ』でメイクアップ

「ヘッドライトコーティング」は、クルマのフロントマスクで『目』に例えられるヘッドライト

のレンズにカラーリングを施すサービスだ。

これは特殊な液剤を塗布することにより、無色透明（クリア）なレンズを赤や青、黄色に着色するもので、フロントマスクをさり気なくメイクアップできるのが特徴だ。

ヘッドライトを着色しても、ライトの光度を損ねたり光色を変えてしまうほど色が濃くないので、保安基準への適合について心配は無用だ。

販売元では「保安基準に適合することを前提に開発し、透明性を保った『さり気ないおしゃれ』が楽しめることをセールスポイントにしています」と説明している。

また、耐久性や耐候性も気になるところだが、もともと同社が取扱っているボディコーティングの製品技術を応用し、レンズ表面に高硬度のコーティング層が形成されるため、よほど過酷な環境でなければ1年間は色褪せしないという。なおヘッドライトの他にテールレンズやサイドマーカーにも塗布することが可能だ。

販売元によると、ヘッドライトコーティングを導入した業態は整備業チェーンの加盟店が多く、それにカーディーラーやカスタム専門ショップが続き、整備工場は少数派だそうだ。